

それぞれの役目



インドのある国に、一人の長者ちやうじやがいました。
ある日のことです。

長者は、遠い国へしごとで旅をすることになりました。そこで、二人の息子むすこを呼んでいいました。

「お父さんは、きょうから一カ月のあいだこの屋敷やしきを留守るすにする。だから、しっかりと二人で留守番をたのむぞ。」

「はい、わかりました。お父さまの留守るすのあいだは、わたくしたちに、おまかせください。」

二人の息子むすこは、胸をはってこたえました。

「そのようにいってくると、わたしも安心だよ。」
長者は、にっこりとしました。

「お父さま、どうぞご安心ください。おまかせください。」

息子むすこたちは、かさねて、自信じしんありげにいました。

「さて、上の息子むすこよ。おまえは、この屋敷やしきの門をしっかりと見張みはっているのが役目だ。」

「はい、門をしっかりと見張みはるのですね。」

「そうだ。そして、下の息子むすこよ。おまえはうしたちをつないでいる杭くわいを、しっかりと番するのだ。」

「はい。うしをつないでいる杭くわいを、しっかりと番するのですね。」

「そのとおりだ。おまえたちの、それぞれの役目はたいへん重要だから、しっかりと守っておくれよ。」

息子むすこたちは、大きく大きくうなずきました。そして、顔を見あわせて、にっこりとわらい